琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄住民の権利拡大（自治権拡大問題）(2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43441

床

議員・バンディ次官補会談

極秘

主管課長へ
本電主管、配付先等に関し御意見あれば直ちに電信課検閲班に連絡こう

電信写

(配布先○印)

大臣	政務次官
官房長	事務次官
(総)官房長	人事課
(機)官房長	会計課
国際資料課長	参事官 調査課
(亜)局長	欧亜局 東亜局
(総)局長	中近東 西欧
(米)局長	北米 南米
(欧)局長	参事官 西欧
近アジア局長	近アジア
(経)局長	次官 統制 参事官 総務 欧亜 国際 通商 米州 ラテン アメリカ 近東
(経)協力局長	参事官 技術 総務 経済 調査 貿易 賠償 賠償調査 賠償業務 賠償経理
(条)約局長	参事官 条約 協定
(国)際法局長	参事官 政策 経済 社会 科学 専門
(情)報文化局長	参事官 対外 対内 中南
(文)化事業部長	文化一 文化二
(移)住部長	参事官 総務 振興 旅券

T A 25900 米北

	年	月	日	時	
64	09	01		2000	発
64	09	02		0935	着

外務大臣殿

ワシントン 武内 大使 総領事 領事

件名 オキナワ問題に関するトコナミ議員のパンデイ国務次官補との会談

第2279号 暗

貴電第1539号に関し。

当地来訪中のトコナミ議員は/日パンデイ国務次官補を往訪、会談/時間にわたつたがその要点次の通り(カナザワ同席。通訳ウイッケル

/。トコナミ議員より日本側としてはオキナワの軍事基地としての重要性はじゅう分認識しており、それ故にこそ右が米軍事基地としての機能を引続き果して行くためには島民の自治権拡大の要求を除々に実現して民心を安定させ米軍へ協力させる気持を育てて行くことがかん要である。左よく分子は/970年の安保条約延長の時機を目標として政府に反対、日米間の空気を盛り上げようとしており、オキナ

外務省

極秘

主管課長へ
本電主管、配付先等に関し御意見あれば直ちに電信課検閲班に連絡こう

電信写

ナワ問題はそのための一つの大きな攻撃目標である。従つてかかる左よく分子の動きを未然に防ぐためには究極的には施政権の返かんを目的とし自治権の拡大を如何に進めて行くかについて日米間に話合いを始むるべき時機がきたと思う旨述べた。

2。パンデイ次官補はそつ直な意見の開ちんを感謝すると前置し、米国のオキナワ政策は/さく年のケネディ声明を基礎としていることは現在も変つていず同声明は

イ) オキナワの日本への究極的返かんの確認

ロ) 島民自治の拡大

ハ) 島民ふくし向上の3点を要点としており、(ロ)(ハ)の2点についてはキヤラウエイ前弁務官は大いに努力しており右に対する批判は当らないこと。国務省としては対オキナワ援助額が希望額に達していないことは認めるが議会が受たくすると思われる最高額は獲得しており、右獲得のためにはキヤラウエイは極めて有能であつたこと、またワトソン新弁務官の選任に当つては細心の注意が払われ、赴任に当つて東京に立寄つたことも今後の在京米大使館を通じての日本政府との連絡の密接化を示さするものであることを述べたのち

イ)については現在のアジアの状勢からみて日本に施政権を返かんしうる程軍事的要請がかん和する状勢は予見しえ

外務省

極秘

主管課長へ

電信写　　本電主管、配付先等に関し御意見あれば直ちに電信課検閲班に連絡こう

す。従つて施政権の返かんを目的として日米間の話合を行なうことは時期しよう早であると述べた。

3。　右に対しトコナミ議員より自分の示さした話合は施政権返かんのデッドラインを決める目的ではなく、軍事基地として円かつなる機能を営ましめるため自治権を除々に拡大し島民と米軍が協力し、ひいては日米関係にオキナワ問題が障害とならないよう日米間に話合いを行なうことである旨述べ、パ次官補は右研究を約した。

（了）

S 39.9.4 (字)

秘

640904 発

外務大臣殿

米　　タケウチ　大使

件名　おきなわ問題に関するトコナミ議員の米国議員等との会談要旨（報告）

政第5521号　秘

トコナミ議員が9月1日の午前にパンデイ国務次官補と会談したことについては、さきに往電をもつて御報告済みのところ、その後同議員は1日の午後にザブロッキ下院外交委員会極東・太平洋問題小委員長、2日の午前にプライス・パスマン各下院議員、同日の午後にイノウエ、フオン各上院議員及びヘメデインガー当館顧問弁護しと、それぞれ個別に会談を行なつた。ザブロッキ小委員長訪問は一行全体の議会訪問の一かんとして行なわれぎれい的なものであつたが、その他はオキナワ問題のみにつき、トコナミ議員の単独会見であつた。プライス等との会見の要点は、トコナミ議員に随行したヤブの報告によれば下記の通りである。

記

1、プライス下院議員との会見

諸受信班 39.9.-9

トコナミ議員が開ちんした意見は、前述往電の1と概ね同様であつたが、同議員は特に、（1）ケネデイ声明を引用しつつ、最終的返かんを再確認せしめんとし、（2）施政権返かん問題と米軍のおきなわ基地維持の問題とを切り離して考えるべきことを強調し、（3）即時返かんを要求する意思なきことを明言しつつも、自治権を拡大するため段階的準備を日米協力して開始することを提案し、（4）おきなわ住民の生活は統計的には非常に改善されたように見えるが、その実、ドル・ベースの生活、社会保障就中医りよう保険の不備等により、日本の水準より未だ大分おとる。日本なみの水準まで引き上げたい。日本の対おきなわ援助増額のためにも、米国側の援助増大を切望するものであり、一層の御努力を期待する旨述べた。これに対し、プライスは（1）最終目標が施政権の返かんに在ること、ないし日本に潜在主権が存することはじゆう分承知しているが、返かんの時期がいつになるかは全く不明である。（2）両問題を分離して考えるべしとの御意見はきよう味がある。（3）段階的準備案は結構であり、後日御意見（トコナミ議員が予め、米国の各方面に約100部送付しておいた提案。その日本語原文1部別添1）に対し回答すべし。今後も連絡及び意見交換を行なうべし。（4）自分は対おきなわ援助増大方にじん力して来ている。上院の方で削減

されて遺かんであるが今後共努力する旨回答した。（なお会談中プライスは「返かん」の意味にrecessionなる語を使用していた。）

2パスマン下院議員との会見

トコナミ議員が意見同ちんした諸点はプライスとの会談におけると同様であつたがパスマンは最終的には施政権が日本へ返かんされるべきことを認めたのみで（/）自分には政策問題をうんぬんする権限がない。援助額の査定が自円の任務であるとしてトコナミ議員の提案に対する直接的回答を避けた。しかし（2）自分は米国の対おきなわ援助はじゆう分であると思つている。おきなわで自分が会つた人達（おきなわ住民）は米国の援助に感謝しており必ずしも日本復帰を希望していないように見受けられた。現在の生活水準に満足しないというのは進歩ある国民の特長であると述べまた（3）自分はかねてらい病に関心を有しおきなわでも施りよう院を訪問して回つたがおきなわ民政府は自分の視察を公表せずかくそうとしていたように見受けられた。らい病が恐れるに足りぬ病気であることをキャンペーンしてほしい。おきなわのらい病対策のためならば援助をおしまぬつもりであると語つた。

3イノウエ上院議員との会見

イノ

イノウエも前述トコナミ議員提案を受領済みでありトコナミ議員は一般説明を省き専らイノウエの質問に答える立場に立つた。右質問中おきなわ住民の何%が日本復帰を希望しているかについてトコナミ議員は調査するまでもなく圧倒的多数が希望している。反対者は極めて特殊な立場にある者であると答えられたがこと回答はイノウエに余りコンヴインシングな印象を与えなかつたように見受けられた。イノウエは復帰問題と米軍基地維持問題の分離に理解を示しトコナミ議員に協力方を約した。

4フオン上院議員との会見

フオンは会見以前すでにトコナミ提案を読了しておりケネデイ宣言の精しんに沿つておきなわの自治権がぜん次拡大されるべきことを自から進んで述べた程であつたが会見時間がきん少であつたためこ意見交換は行なわれ得なかつた。

5ヘメデインガーとの会見（ホテルにおいて）

ヘメデインガーに対しては（トコナミ議員は相当具体的な話をされ）「米国が施政権のぜん進的返かんに同意するのであれば日米安保条約と別におきなわのみに関する協定を結びおきなわに関する限りは核兵器の導入を認め

ると

ることとしてもよい。軍事基地及びそれと密接な関連を有する産業に関するコントロールは現在のままで差支えない。この考えは日本政府の公式見解とはなつていないが、自民党はこの線で固まつている。」とまで言われたが、ヘメディンガーは、「ワトソンの方がキャラウエイより良いかどうか疑問である。大体米軍は完全統治を固執して一歩も譲ろうとしない。議会筋も概ね軍に同調している。国務省には貴議員の提案を理解する者がいるであろうが、一般世論は常に強こう派に与する。世論をリードしうる人（新聞の論説委員、フオリン・アフエアーズ・クオータリーの寄こう者、大学教授等）を見出して、彼等の考え方をその方向に向けることがきず必要と思う。直接一般世論に訴えることは未だ危険であろう」との意見を述べ、同人が最近国防省筋から入手したおきなわ問題に関する陸軍省の議会あてレポートの写（別添2、議会で未だ審議中の由にて未公表）をトコナミ議員に手交した。

付属物空便（行）